

**令和4年度 国際交流・多文化共生推進事業助成金
助成事業一覧表**

	No	事業名	団体名
国際交流・協力事業	1	日中国交正常化50周年・岐阜市と杭州市碑文交換60周年の記念事業	岐阜日中文化交流協会
	2	国交正常化50周年記念事業	岐阜県日本中国友好協会
	3	2022国交樹立記念交流事業～岐阜市と下呂市をつなぐ～	ぎふ善意通訳ガイドネットワーク
多文化共生推進事業	1	ポルトガル語によるこころの相談	公益財団法人大垣国際交流協会
	2	「MICHILINK はなそう！ みよう！ 体験しよう！」プロジェクト	多文化演劇ユニットMICHILINK
	3	第21回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会	岐阜地域留学生交流推進協議会
	4	多文化共生フォーラム (テーマ①)～比べてみよう世界の食と文化～ (テーマ②)～各国の「違い」を尊重して共に生きる社会とは？～	岐阜県世界青年友の会
	5	海外にルーツを持つ子ども達の居場所づくり	多文化子どもエデュニホ☆nico

令和4年度 国際交流・多文化共生推進事業助成金事業一覧表（国際交流・国際協力）

No	事業名/団体名	開催時期・場所など	事業内容・効果など
1	日中国交正常化50周年・岐阜市と杭州市碑文交換60周年の記念事業 岐阜日中文化交流協会	開催日：R5.5～R5.11 ①服装文化交流活動 4回 ②音楽交流活動(芸術教室) 4回 ・信長まつり協賛イベント R4.11.5 ③絵画交流活動(絵画教室) 6回 ・入賞作品展 R4.10.16～18 3日間 場 所： ひかり外国語教室、JR岐阜駅 北口広場、ぎふメディアコスモス 参加者： ①各10名(うち外国人6名) ②延べ31名(うち外国人23名)、 イベント出演者6名(うち外国人4名) ③各12名(うち外国人4名)、入賞者7名 (うち外国人4名)	日本と中国の伝統衣装を展示・紹介し、研究者から解説を聞きながら両国の歴史的繋がりなどについて考えた。県内の小中学生と児童芸術団体所属の中国系青少年たちが、日本の和楽やJ-POP、中国の民族音楽を学んだ。成果発表の場として、「信長まつり」の協賛事業である「日中友好 市民の集い」のステージで歌やダンスを披露した。 県内の小中学生が、「日中友好」や「アジア大会応援」をテーマとした絵画作品を作成し、「日中青少年漫画コンテスト2022」に参加した。中国杭州市などの小中学生と交流し、絵画を介して互いに学び合い、共に成長したきっかけを作ることができた。 今後は、地域の特徴を見据え、ウインウインの発展を実現する国際交流事業に取り組みたい。また、青少年交流を中心に新たな魅力を創造する活動を継続的に行いたい。
2	国交正常化50周年記念事業 岐阜県日本中国友好協会	開催日： ①ぎふ中国くるぶ交流講座 R4. 5. 28 14:00～15:30 ②日中半世紀 記念シンポジウム R4. 9. 25 13:00～15:00 ③岐阜県日中友好協会新春のつどい R5. 2. 4 11:00～13:30 場 所： ①ハートフルスクエアG 大研修室 ②③グランヴェール岐山 参加者： ①44名(うち外国人14名) ②58名(うち外国人12名) ③39名(うち外国人5名)	日中国交正常化50周年を記念し、日中両国民の相互理解と友好交流の更なる推進のため、それぞれ「スポーツ外交」、「記者として見た日中50年」、「日中緑化交流」をテーマに講演会を開催した。交流会では、講師と参加者の活発な討論が行われるなど草の根交流の重要性を再認識し、歴史、文化、経済など幅広い交流の場を提供することができた。 今後は、経済的な結びつきを推進する土台作りとして民間交流及び文化の相互理解を進めていきたい。
3	2022国交樹立記念交流事業～岐阜市と下呂市をつなぐ～ ぎふ善意通訳ガイドネットワーク	開催日：R4. 11. 19 10:00～12:00 場 所：岐阜会場 市橋コミュニティセンター ：下呂会場 下呂温泉合掌村 参加者：外国人36名 (岐阜会場24名 下呂会場12名) 参加費：無料	インド・スリランカ・中国との国交樹立記念交流事業の位置づけとして、県内の観光拠点である岐阜市と下呂市を同時にオンライン(Zoom)で結び、コロナ禍において集まる機会が少なくなっている中、同じ地域で普段交流する機会のない10ヶ国の岐阜県在住の外国籍住民がそれぞれの国の料理やお菓子を紹介しながら母国の歌を披露するなどして文化交流し、参加国との相互理解を深め友好を促進した。 今後はDX(オンライン)での実施を通じて対面による交流のみでなく距離のある地域どうしでも交流できる環境を構築するとともに各地域を実際に訪問するなどフェイス ツー フェイスの交流へ発展していく契機にしていきたい。

令和4年度 国際交流・多文化共生推進事業助成金事業一覧表（多文化共生）

No	事業名/団体名	開催時期・場所など	事業内容・効果など
1	ポルトガル語によるこころの相談 公益財団法人大垣国際交流協会	開催日：R4.4.10～R5.2.12 11回 毎月第2日曜（原則） 9:00～16:00のうち6時間 ※1人1時間 場 所：大垣市スイトピアセンター 参加者：西濃地域在住のブラジル人 延べ59名 相談料：無料 相談員：ブラジル人心理カウンセラー	ブラジル人を対象とした母語による「こころの相談会」を月1回実施し、子育て、学校、仕事、家族、人間関係など日常生活で生じる不安や悩み全般に対応した。特に、子どもの学校生活や子育てに関する相談が多く、相談者からは「子どもの態度や様子が良い方向に変わった」「気持ちが楽になった」等の感想をいただいた。一人で悩みを抱えるのではなく客観的な意見を聞くことで、こころの悩みが軽減された。日本語が十分でない人にとって母語で相談できたことはプラスになった感じている。こころの相談は継続して支援する必要があるため、来年度も継続して実施する予定。
2	「MICHILINK はなそう！みよう！体験しよう！」プロジェクト 多文化演劇ユニットMICHILINK	開催日：R4.5.8～R5.2.12 ①MICHILINK（交流サロン）10回 ②映画鑑賞会 1回 ③労働相談会 2回 ④防災センター訪問 1回 ⑤キャッサバ掘り体験 1回 場 所：①②③可児市文化創造センター他 ④岐阜県広域防災センター ⑤キャッサバ畑（可児市） 参加者：県在住外国人等 ①延べ25名 ②10名 ③延べ4名 ④5名 ⑤35名（うち日本人10名）	在住外国人を対象とした日本での生活・文化等を学ぶMICHILINK（交流サロン）や映画鑑賞会を実施した。活動の中で、最近の出来事や困り事を共有し、その時使える日本語の紹介や話を聞き寄り添うことで、孤独に陥りやすい外国人が交流し、安心できる居場所としての場を提供することができた。労働相談会では、派遣から正社員の切り替えの相談等に対応し悩みの解消につなげた。防災センター訪問では地震と消火器体験を行い防災への意識向上を図るとともに、キャッサバ掘り体験では日本人家族も参加し、地域との関わりが希薄な外国人にとって日本人とつながる貴重な機会となった。
3	第21回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会 岐阜地域留学生交流推進協議会	開催日：R4.11.26（土）13:30～16:30 場 所：岐阜協立大学北方キャンパス（大垣市） 参加者： 〔発表者〕外国人留学生9名（7か国） 〔聴講者〕34名（うち外国人4名） 演 題：自由 ※1人7分程のスピーチ後、質疑応答	県内の外国人留学生による日本語弁論大会を岐阜協立大学にて実施した。岐阜大学、朝日大学等、県内の6教育機関から集まった9名（7か国）が、日本での生活や、日本の興味深い点等を発表した。留学生の日頃の日本語学習成果を発揮し評価されることで、留学生の日本語学習への更なる意欲の喚起及び日本語の表現力向上、日本文化の認識につながる有意義な大会となった。また、「留学生にとっては貴重な体験となるので、ぜひ続けてほしい」「日本人にとっては留学生の考え方や文化を知る大変良い機会だった」等の声をいただくことができた。
4	多文化共生フォーラム（テーマ①）～比べてみよう世界の食と文化～（テーマ②）～各国の「違い」を尊重して共に生きる社会とは？～ 岐阜県世界青年友の会	開催日：テーマ① R4.6.26 11:00～12:00 テーマ② R4.12.3 13:30～16:00 場 所：大垣市スイトピアセンター 参加者：①70名（外国人5名） ②70名（外国人3名） スピーカー：県在住外国人 ①7名（フランス、イタリヤ、ベトナム、ブラジル、インドネシア、ハンガリー、イタリヤ、ロシア） ②6名（アメリカ、アフガニスタン、イギリス、ブラジル、ベトナム、ロシア）	テーマ①は、外国人から見た食と文化について、自国の食文化、習慣の違いや共通点等を紹介し、民族性、宗教観、各国の食材やマナー等を知るよい機会となった。テーマ②は、各国ではどのように施策や取り組みが行われているのかを知るため、多民族による風習や習慣、出産・産後制度や休暇制度の違い、紛争国の現状、多文化共生のための理解すべきこと等を紹介し、多文化共生社会における今後の教育や活動に活かすよい機会となった。また、アフガニスタンの現状や教育の大切さ、平和の願いにも触れることができた。
5	海外にルーツを持つ子ども達の居場所づくり 多文化子どもエデュニホ☆nico	開催日：①日曜教室 R4.4～R5.2 全42回 毎週日曜 13:30～15:00 ②進学支援 R4.8.4 9:30～11:00 ③自己表現ワークショップ R4.12.4 13:30～15:30 場 所：①③瑞穂市民センター ②穂積中学校日本語教室 参加者：海外にルーツを持つ小学生、中学生、その家族等 ①16名（延べ210名） ②17名 ③30名（うち日本人15名）	①日本語及び教科学習教室を行い、様々な小中学校の外国人の子どもが参加した。学校と連携して日本初期指導が必要な子どもの支援を実施するとともに、引きこもり傾向にある生徒のケアや保護者との関係を構築することができた。②外国籍生徒による高校進学報告会を実施し、穂積中学校の卒業生5名が自身の体験を話した。先輩から直接高校生活の様子を聞く事によって、進学への意欲や興味を持つことができた。③日本人と外国人の子どもが言葉に頼らず共同で活動するワークショップを開催した。異年齢・多言語・多文化の中の状況下で、話し合いを進めるためのルールや配慮を学ぶ機会となった。